



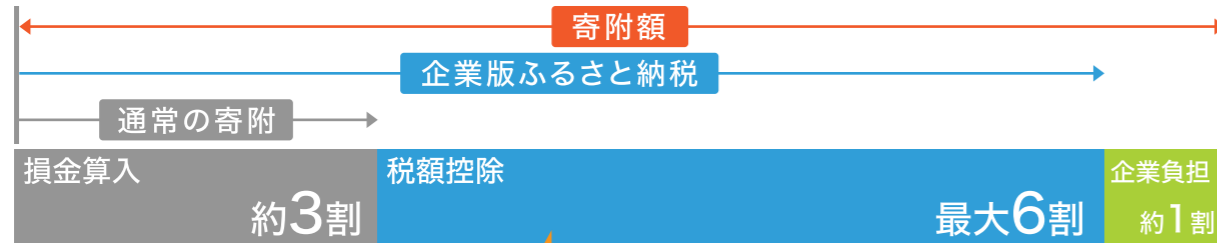
企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは？

国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。通常の地方公共団体への寄附における損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、税額控除（寄附額の最大6割）により、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が寄附額の約1割まで圧縮されます。



活用する
メリット

- 寄附額の最大約9割の軽減効果を活用しながら、地方創生を応援できます！
- 社会貢献や企業のPRをはじめとする事業展開につながります！



例 1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減

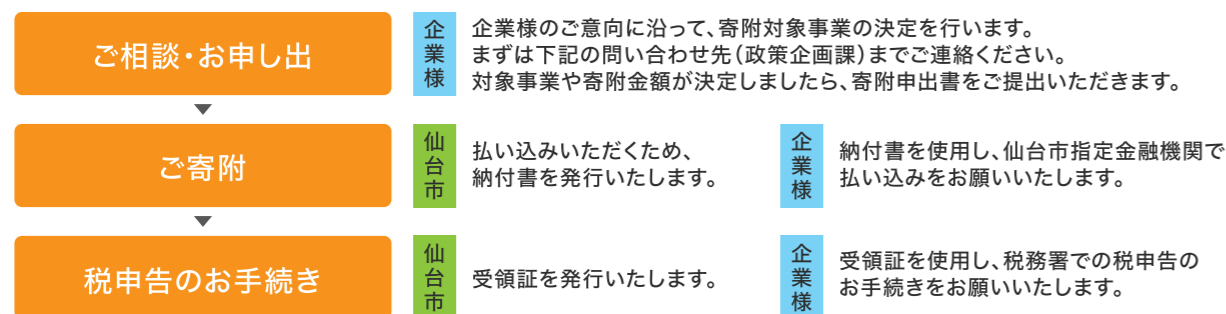
- ①法人住民税 寄附額の4割を税額控除（法人住民税法人税割額の20%が上限）
- ②法人税 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除 ※ただし、寄附額の1割が限度（法人税額の5%が上限）
- ③法人事業税 寄附額の2割を税額控除（法人事業税額の20%が上限）

税額控除の手続（申告）や算出に関しては、税理士や所管する税務署へご相談ください。

留意事項

- ・本制度を活用して仙台市へ寄附ができるのは、仙台市外に本社がある企業です。
- ・1回当たり10万円以上の寄附が対象です。
- ・寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

寄附の流れ



令和3年度にご寄附をいただいた企業様のご紹介

仙台市の地方創生事業を応援いただきましたことを心より感謝申し上げます

株式会社 加藤美蜂園本舗 様、コーユーレンティア 株式会社 様、株式会社 オフィスシーアイエス 様、株式会社 マルミ建設 様、
信金中央金庫 様、エネグローバル 株式会社 様、三井住友海上火災保険 株式会社 様

（公表可の企業様のみご紹介いたします ※ご寄附をいただいた年月順）

事業の詳細は仙台市公式HPをご覧ください。

<https://www.city.sendai.jp/machizukuri-kakuka/shise/kigyoubanhurusato/kigyoubanhurusato.html>



問い合わせ先

仙台市まちづくり政策局
政策企画部政策企画課

〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL / 022-214-1245 E-mail / mac001620@city.sendai.jp

令和4年8月発行



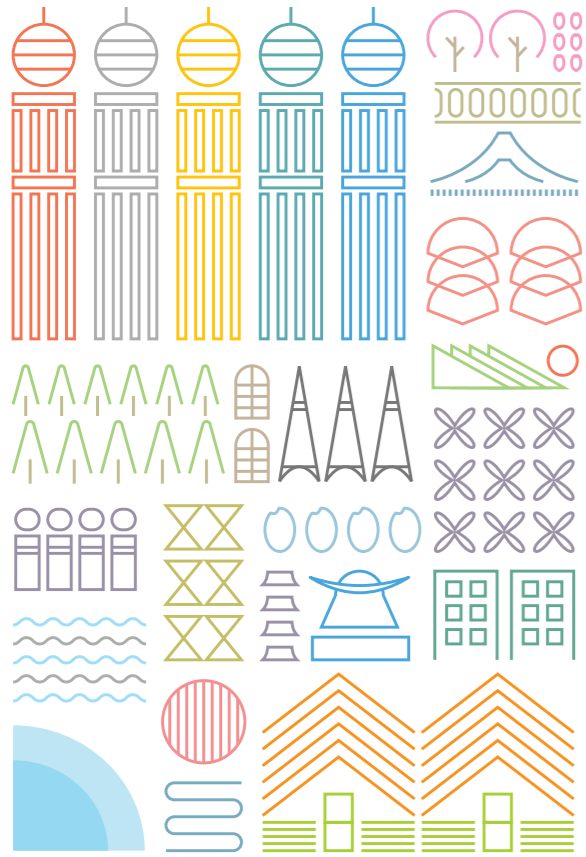
ご縁をつむいで仙台をつくる



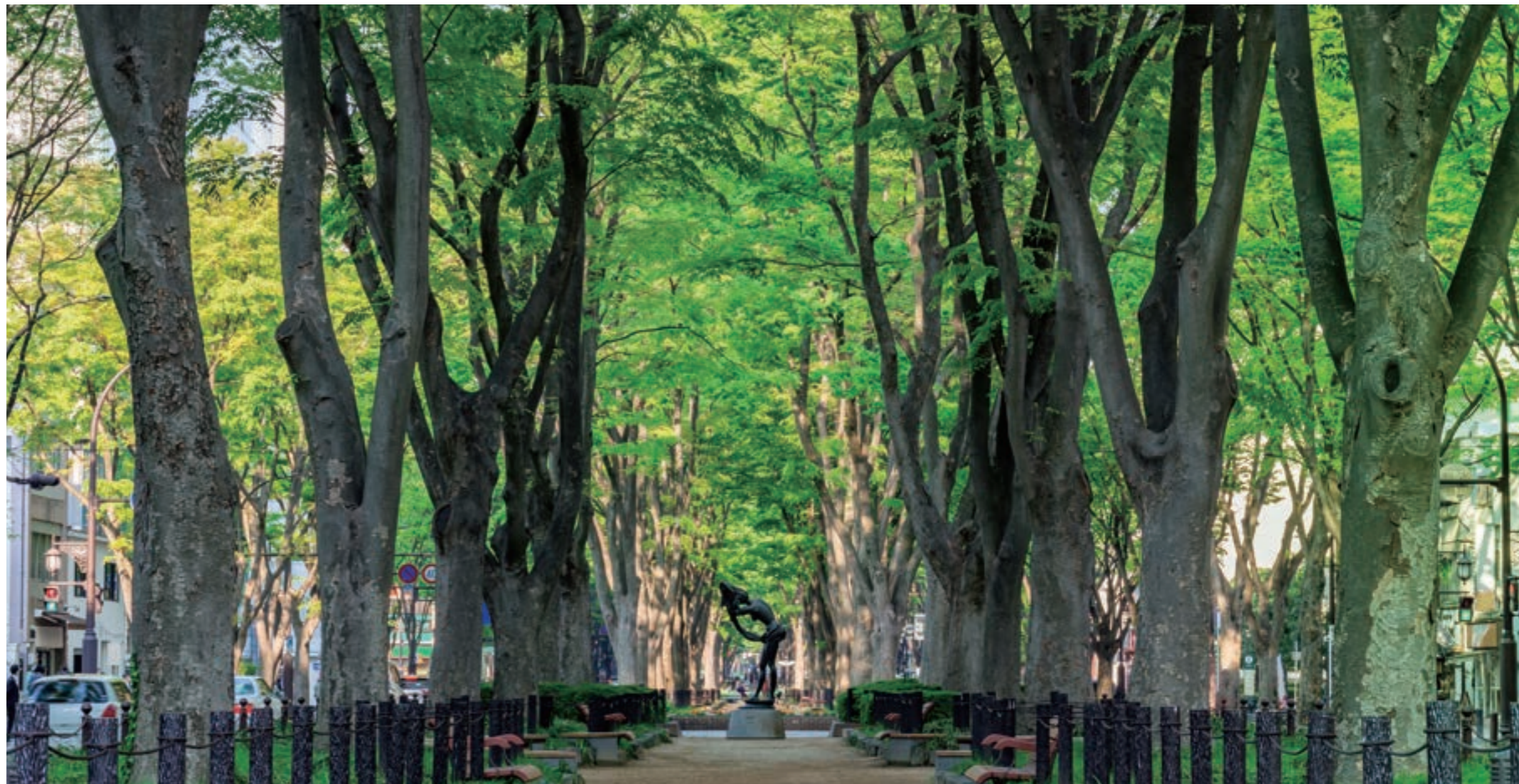
企業版ふるさと納税の
ごあんない

事業特集号
Vol.1





仙台市は、
1600年に伊達政宗公が
居城を定めて以来、
雄藩の城下町として栄え、
平成元(1989)年に
東北で初めての
政令指定都市となりました。
「杜の都」と呼ばれる
豊かな自然環境、
「学都」としての
高度な研究開発機能を有し、
東北の政治・経済・学術・文化の
中枢都市として
発展してきました。





▶東北の広域連携の推進

東北の魅力発信拠点等を活用した情報発信



東北の食材を活用する
カフェ・レストランの
設置により東北の魅力を発信

令和元年8月、仙台市は東北の全体の交流人口の拡大や地域経済活性化を目的として、市中心部に東北の食材のおいしさを発信するカフェ・レストラン「Route227s' Cafe」(ルート・ニーニナナ・カフェ)を設置しました。



「食」を切り口に東北全体の連携と交流人口の拡大を推進します。

東北との深い絆のもと、仙台市は現在、東北の各都市や関係団体等との連携を推進しながら、東北の交流人口の拡大や地域経済活性化を実現するための広域連携事業に取り組んでいます。

これまで、東北の夏祭りを活用した首都圏でのプロモーションや東北全体でのオンラインツアーの推進等、さまざまな広域連携事業を進めてきましたが、中でも特徴的なのが、「東北の魅力発信拠点等を活用した情報発信」プロジェクトです。

このプロジェクトの中心となるのは、仙台市中心部にある勾当台公園内に設置した、東北の食材を活用するカフェ・レストラン「Route227s' Cafe」(ルート・ニーニナナ・カフェ)です。227という数字は、東北の市町村の数に由来します。

勾当台公園は、美しいケヤキ並木で知られる定禅寺通に面した公園で、日常的に周辺の会社員や官公庁職員、アーケード街に向かう買い物客が行き交うなど、多くの集客が期待できます。

そんな恵まれた立地を背景に、東北6県227の市町村が、地域の食材を活用した、イタリアンを中心とするオリジナルメニューの開発と期間限定で

の提供に加え、カフェ前の広場を利用した農水産品のマルシェ、手仕事品のワークショップ等とも連携したプロモーションを実施できるのが「Route227s' Cafe」の大きな魅力です。さらに、東北の各地域のイベントへの誘客のためのPRや、地域で開発した新食材のお披露目パーティーの会場としての利用も可能です。

たとえば令和3年11月・12月には、風光明媚なリアス式海岸と豊富な海・山の幸で知られる宮城県沿岸部の南三陸町が「南三陸フェア」を開催しました。開催にあたり、「Route227s' Cafe」では、牡蠣、タコ、ホヤ、シイタケといった南三陸町特産の食材をふんだんに使用したレシピを考案。(下の写真は「濃厚クリーミー牡蠣と契約農場ルッコラのクリームスパゲッティ」)フェア開催期間中、それらのメニューと南三陸町内にあるワイナリーのワインのマリアージュをお楽しみいただくなど、多くの来店者を魅了しました。

フェアを主催した南三陸町商工観光課からは、「新型コロナウイルス感染症拡大への影響により流通が滞る地域産品のPRを検討している際に、魅

力発信拠点の受託事業者よりこのカフェを紹介いただきました。オープニングイベントで南三陸町の食の魅力と作り手の想いをお客様に直接伝えることができたことも奏功し、魅力発信や現地への誘客につながりました。また、お客様の反応は、地元生産者にとっても励みになりました。仙台市内において食のプロモーションを自ら企画して行える場があることはありがたく、他店舗等への食材活用の売り込みにつながるきっかけにもなりますので、経済効果についても期待するところです。」という声が届いています。

現在のところ、令和4年度の後半はほとんどの月でフェアやイベントが予定されています。年を追うごとにリピーターが増えている点に、手応えと各自治体の期待の大きさを感じています。

これからも、「Route227s' Cafe」を各自治体のプロモーションの場として活用していただくことで、東北に支えられている仙台市として、東北各地への送客による、東北全体の交流人口の拡大と活性化を目指してまいります。



photo:南三陸フェア



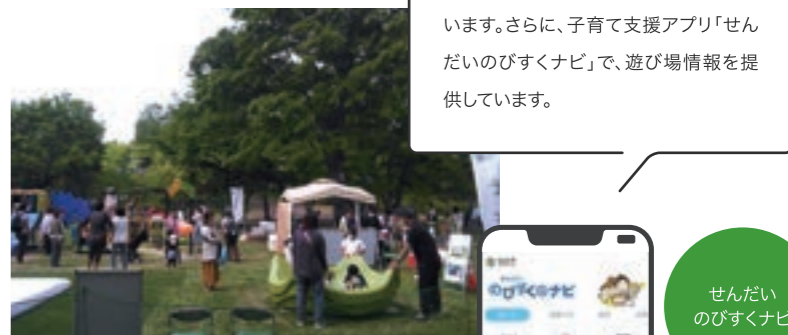
▶子育て応援社会の実現

子どもの遊びの環境の充実



子どもの遊びの環境充実に
向けて実証実験を実施
アプリで子どもの
遊び場情報をはじめとした
子育て支援情報も紹介

仙台市では遊び場の利用実態やニーズを把握するための実証実験を実施しています。さらに、子育て支援アプリ「せんだいのびすくナビ」で、遊び場情報を提供しています。



せんだいのびすくナビ



「遊び」や「情報発信」を通して、子育てを応援します。

子どもがさまざまな学びや遊び、交流などを通じて、豊かな人間性や社会性を身につけるとともに、その可能性を広げ、個性や能力を発揮できるよう、仙台市では多様な体験と活動の場、遊びの環境の充実に取り組んでいます。

その取り組みの一環として、令和4年5月から、本市にふさわしい遊びの環境の実現に向けて検討を深めるための実証実験「あ・そ・び・ば 仙台」を開始しました。

実験では、人気の総合公園、屋内遊びが楽しめる体育館、自然豊かな郊外の施設、市中心部の駅前エリア等を会場に、遊びを見守り促すプレーリーダーを配置。屋内には屋内用の、屋外には屋外用の遊具を仮設したり、自然を活かした遊びを行ったりと、季節や会場に合わせた遊びを行っています。

イベント中は会場等についての感想をいただくとともに、「普段どんな遊びをしているのか」「やりたいけれどできていない遊びは何か」等、アンケートを実施し、子どもと子育て家庭の遊び場の利用実態の把握や、遊びのニーズの掘り下げを行っています。

実証実験でプレーリーダーを務めたスタッフは、「『これ、このまま残しておけないですか?』と聞いてきたのは、ロープを使って手作りの遊具を作った小学生。相当楽しかったようです。」と、現場の様子を語りました。遊び方を知らないともいわれる今の子どもも、場所と機会さえあれば、自分で考え、試行錯誤しながら遊びを創り出していくのだと実感したそうです。

また、参加した保護者からは「工作遊びや自然の中での遊びのように、子どもの発想を活かした遊びができる場が欲しい」という声も上がっています。本実証実験の結果は、令和4年度末に取りまとめ、遊びの環境の充実に活かしてまいります。

こうした実証実験を実施するほかに、仙台市では、仙台での子育てを応援する情報サイト・アプリの「せんだいのびすくナビ」を運営しています。令和4年7月現在、「のびすくナビ」の登録件数は、4,000件余り。毎月100件程度登録が増えていることから、子育て家庭の多くが、子育てに役立つ情報を求めていることがうかがえます。

この「のびすくナビ」では、子どもたちが遊べる場

所の情報を提供するために、令和4年1月に「遊び場マップ」と題したページをオープンしました。

特長は、仙台市内を中心とする公園や児童館、市内5カ所にある子育て支援施設「のびすく」等の行政が管理する遊び場に加え、「のびすくサポーター」に登録している民間の遊び場も紹介している点にあります。463件(令和4年7月現在)の遊び場の中から、地区、遊びのメニュー、施設・サービス、主な対象年齢といった条件で絞り込むことで、スムーズに検索できるよう工夫しています。また、令和4年7月には、よく利用される仙台市外の遊び場情報の掲載も開始しています。

これからも必要な家庭に必要な情報が届くよう、「遊び場マップ」のように、企業や民間施設などに協力していただきながら、サイト・アプリの充実を図ってまいります。

仙台市では、実証実験「あ・そ・び・ば 仙台」や「のびすくナビ」での遊び場情報の紹介等を通して子どもの遊びの環境の充実を図ることで、「子育てしやすいまち」「子育て家庭にやさしいまち」の実現を目指します。



photo:あ・そ・び・ば 仙台



▶ 都心再構築プロジェクト

次世代放射光施設(愛称:ナノテラス)関連産業振興事業



提供: (一財)光科学イノベーションセンター

世界最高水準の分析機能を有する次世代放射光施設をイノベーションや付加価値の創出につなげる

令和6年度に本格稼働が予定されている次世代放射光施設(ナノテラス)。仙台市は関係機関と連携しながら、研究開発施設や企業の立地・集積促進及び地場産業等の利活用に向けた普及啓発等に取り組んでいます。



新たな「光」で、東北発のイノベーションと産業振興を目指します。

放射光施設は、光速近くまで加速した電子の進行方向を電磁石で曲げた際に発生する極めて明るく指向性の高い光(放射光)を利用して、物質をナノ(10億分の1)メートルレベルで分析する施設です。

放射光施設による研究は、半導体、航空、エネルギー・資源、自動車・機械、電機・精密、建設、食品、衣料、製薬・医療、IT業界等、幅広い分野に及び、人々の豊かな暮らしや安心・安全な社会を支えてきました。

現在、仙台市にある東北大学青葉山新キャンパス内に、国内10カ所目、東北・北海道では初となる新たな放射光施設の建設が進められています。それが、国と地域、民間企業等が出資する、世界最先端の研究施設「次世代放射光施設(ナノテラス)」です。

「ナノテラス」という愛称は、ナノの世界を明るく

照らし出しモノづくりを導くという意味が込められています。

令和6年度に本格稼働する予定のナノテラスの特徴は、日本の先端技術の粋を集めた、新しい加速器技術が採用される点にあります。既存の国内の放射光施設を軟X線の領域で100倍上回る輝度を実現できるようになるほか、光の計測機器の発展により、高精細な大量のデータを高速で得られるようになります。物質表面で起こる化学反応の解析等を得意とする「軟X線」の放射光を特長とし、新薬や高性能触媒の開発に加え、食品分野における成果も期待されています。

仙台市では現在、ナノテラスの利活用促進に関して、2つの事業を推進しています。

1つは、ナノテラスを中心に、大学、研究機関、企業の研究開発拠点や関連企業が集積した「リサーチコンプレックス」の形成です。集積した団体・企業

が相互にコミュニケーションをとりながら、新たなイノベーションを創出していくことが、「リサーチコンプレックス」の大きな目的となっています。

もう1つは、地場の企業の産業振興です。地場の企業においてもナノテラスを活用していただけるよう、既存の放射光施設を実際に利用していただき、その結果を広く周知する「トライアルユース事業」を実施。さまざまな企業・団体が放射光施設を活用し、物質の構造をナノの単位で見ることにより、「おいしさ」の要因を解明するなど、新しい価値創造に向けたエビデンスの取得や研究を行っています。

仙台市は、ナノテラスの利活用を促進することで、仙台・東北の産業におけるイノベーションや付加価値の創出等につなげ、新産業の創造から、豊かな未来社会を実現する「光イノベーション都市」を目指しています。

施設の関係者様よりコメント
ナノテラスは、世界最先端の光でナノを照らしイノベーションを起こす施設です。カーボンニュートラルの社会実現など、喫緊の社会課題を解決する企業・大学の研究開発を支援する次世代のツールです。東日本大震災から立ち上がり、この施設の実現に取り組む仙台に、是非、ご支援をお願いいたします。
一般財団法人光科学イノベーションセンター 理事長 高田 昌樹

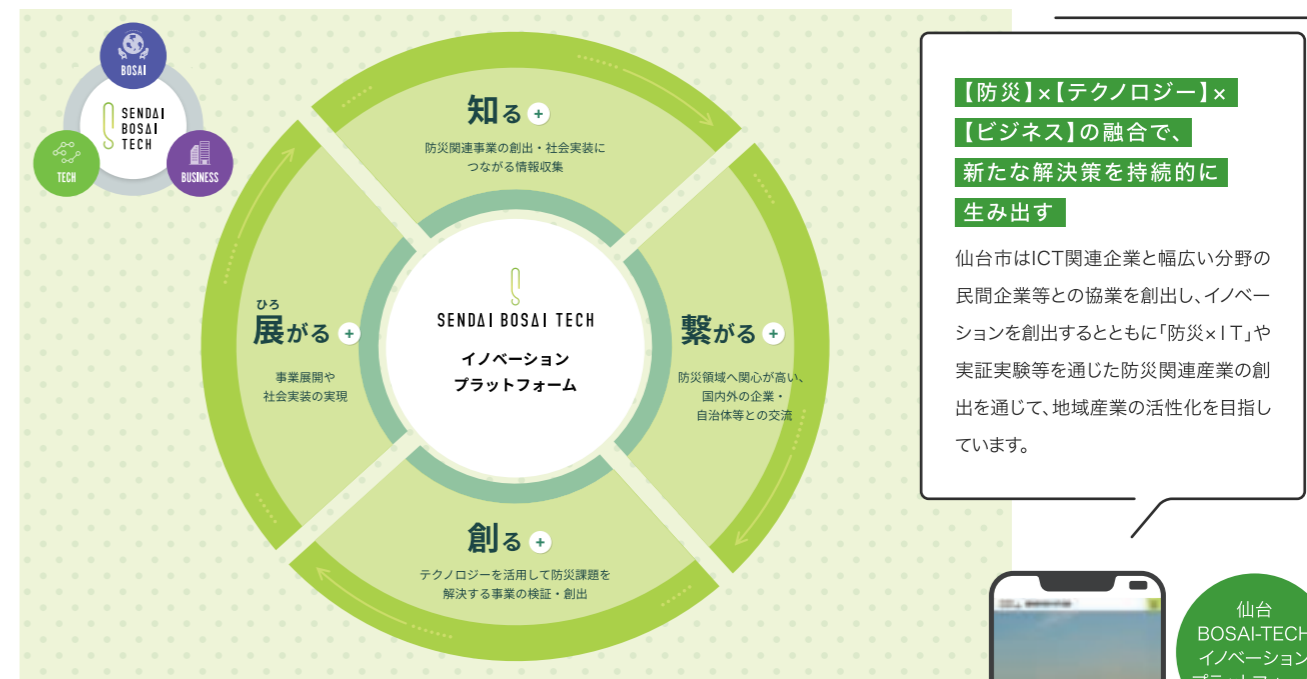


photo:施設内観(建設中)



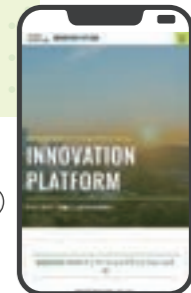
▶ BOSAI-TECHイノベーション

BOSAI-TECHイノベーション創出促進事業



【防災】×【テクノロジー】×【ビジネス】の融合で、新たな解決策を持続的に生み出す

仙台市はICT関連企業と幅広い分野の民間企業等との協業を創出し、イノベーションを創出するとともに「防災×IT」や実証実験等を通じた防災関連産業の創出を通じて、地域産業の活性化を目指しています。



仙台 BOSAI-TECH イノベーションプラットフォーム



独自のプラットフォームで防災テクノロジー産業の発展と防災力向上を目指します。

この事業の誕生には、大きく分けて2つの背景があります。

1つは、平成27(2015)年3月、仙台で開催された「第3回国連防災世界会議」において、東日本大震災の経験と教訓が取り入れられた「仙台防災枠組2015-2030」が採択されたことです。世界の国々がこの枠組に沿って防災・減災に取り組んでいくことになりました。この「仙台防災枠組」については、平成27(2015)年9月に決議された「持続可能な開発目標(SDGs)」でも、この枠組に沿ってあらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行うことが定められました。

もう1つは、「仙台市経済成長戦略2023」です。仙台市は、産業面からの防災事業の振興を推進するため、防災とITを掛け合わせた、(BOSAI-TECH)(防災テック)による防災関連産業の創出を通じて地域産業の活性化を目指すという目標を掲げました。

この2つの背景から生まれたBOSAI-TECHイノベーション創出促進事業では、これまで、国内外の企業、自治体、学術機関等の連携による防災ソ

リューションの創出、実証実験、沿岸部での先端技術の導入(津波避難広報ドローン)等を推進してまいりました。

こうした流れをさらに加速させるため、令和3(2021)年度、仙台市は、防災・減災という領域に関心がある方々に継続的に関わっていただくため、「仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム」(以下、「プラットフォーム」という)を構築しました。

目的は、災害リスクの軽減を目指す【防災】、自分たちの持つ技術を防災という社会課題に還元する【テクノロジー】、新事業を創出する【ビジネス】という3つの異なる領域それぞれに携わっている人材・企業が集う場を提供すること。さらに【防災】×【テクノロジー】×【ビジネス】を融合した新たな解決策を持続的に生み出すことにあります。

プラットフォームでは、テクノロジーを活用した防災関連事業の創出や社会実装に関心のある企業・自治体・研究機関といった幅広い会員に対して、①【防災】×【テクノロジー】×【ビジネス】の人材・企業が交流するイベント、②防災・減災分野での新た

な事業を創出するプログラム、③アイデアやプランを実践的な場で試す実証実験、④結果を共有する活動レポート・報告会、といった活動を通じた支援を行い、プラットフォーム内にさまざまな事例や実証実験の結果を蓄積していきます。

実際に実証実験に取り組んだ市外のベンチャー企業からは、「仙台で新しい取り組みをしているのなら地域にとらわれずやってみようと思いました。津波や地震の多い過酷な環境ともいえる日本で通用すれば、世界標準のサービスにもなり得ると思っています。」と、プラットフォームに期待を寄せられています。

BOSAI-TECHイノベーション創出促進事業は、震災の経験から防災・減災の重要性を理解し、「防災・減災に貢献したい」という強い想いを抱いている企業・研究機関・自治体などが多く集まる、仙台市ならではの取り組みです。今後、令和12(2030)年の「仙台防災枠組」達成に向けて本事業を地道に推進するとともに、プラットフォームを広く活用していただくことで、国内外の防災力を高めていきたいと考えています。



photo:実証実験風景